

1. 遺跡名 明神台遺跡
(みょうじんたい)
明神台北遺跡(仮称)
(みょうじんたいきた)
2. 所在地 横浜市保土ヶ谷区明神台団地内
3. 時代 旧石器時代・縄文時代・
弥生時代後期～古墳時代初頭
4. 調査概要

明神台団地建替え工事に伴い、平成16年4月から同年10月半ばまで発掘調査が行われました。

明神台遺跡は、平成16年4月から7月まで(財)かながわ考古学財団と(財)横浜市ふるさと歴史財団にて発掘調査を実施し、明神台北遺跡(仮称)は7月後半から10月半ばまで(財)かながわ考古学財団が調査を行いました。

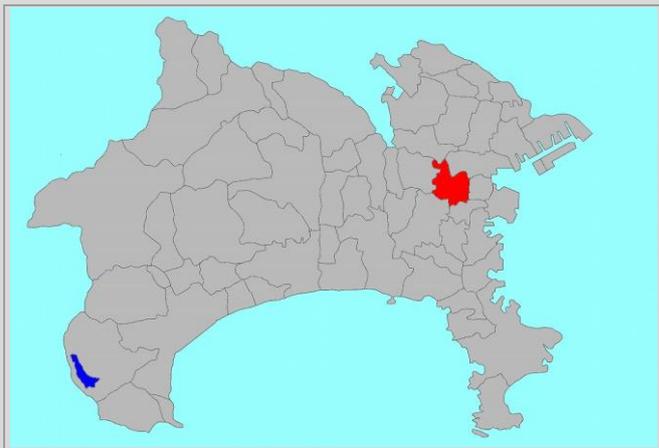
本遺跡では、主に弥生時代後半～古墳時代初頭の集落に関連した遺構や遺物が多数出土しました。

今回の調査では、当概期の竪穴住居跡が明神台遺跡で約30軒余り、明神台北遺跡(仮称)で約20軒発見されました。その他小型の方形周溝墓や環濠等も確認されました。

竪穴住居跡からは、土製の勾玉やガラス玉、銅鏃などが出土した例もあります。大型の住居跡も見られ、一辺が10mを超し、深さ1m以上もある竪穴住居跡が明神台遺跡と明神台北遺跡(仮称)でそれぞれ1軒ずつ発見されました。

縄文時代では、「落とし穴」状の土坑や集石が出土しました。何れの遺構にも時期を決定できる遺物がほとんど伴わず明確ではありませんが、断片的に出土している土器片や出土層位等から、その多くは縄文時代早期～前期の所産であろうと考えられます。

旧石器時代については、およそ2万5千年前以前のローム層(B3層)中から、ナイフ形石器が1点出土しました。



明神台遺跡(9号棟調査区) 弥生面全景



明神台北遺跡 弥生面全景



明神台北遺跡 銅鏃出土狀況